



NO.4

奈良県 地域創造部 こども・女性局 こども・女性課

テーマ

若者の“モヤモヤ”を可視化し
行動を促す仕掛けづくり

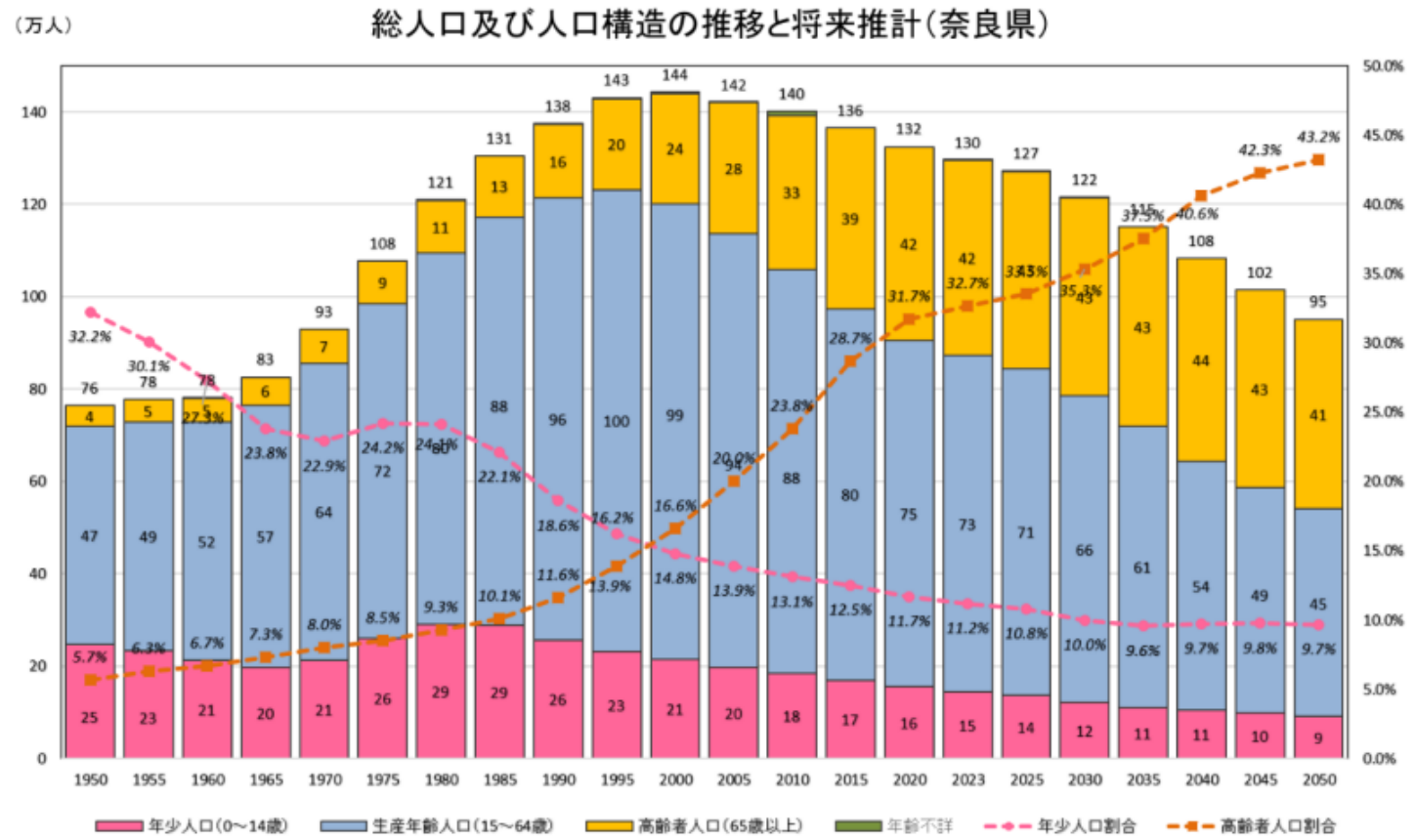




若者の“ジェンダーモヤモヤ”を可視化し
行動を促す仕掛けづくり

奈良県について

奈良県は、自然が豊かで大阪や京都へのアクセスの良さから
ベットタウンとして人口増加。



- ✓ 2000年頃までは、人口増加
- ✓ 県外就業率 3 位
(埼玉・千葉に次ぐ…！)
- ✓ 女性の就業率最下位
- ✓ 専業主婦率 1 位
- ✓ 若年層の流出

出典：2020年までは総務省「国勢調査」、2023年は総務省「人口推計」、
2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

ジェンダー平等を推進し、「性別によって選択肢を制限されることなく、
希望に添った生き方・働き方を実現できる社会」

性別に関する固定観念（※）は大きな課題。

変革すべきは、【行動や社会の風土】 > 【個々人の意識・考え方】

※「男は稼いで家計を支えるべき」「デートで男性が女性をリードすべき」

「女は結婚し家事・子育てに専念するべき」「男は営業、女は事務」など

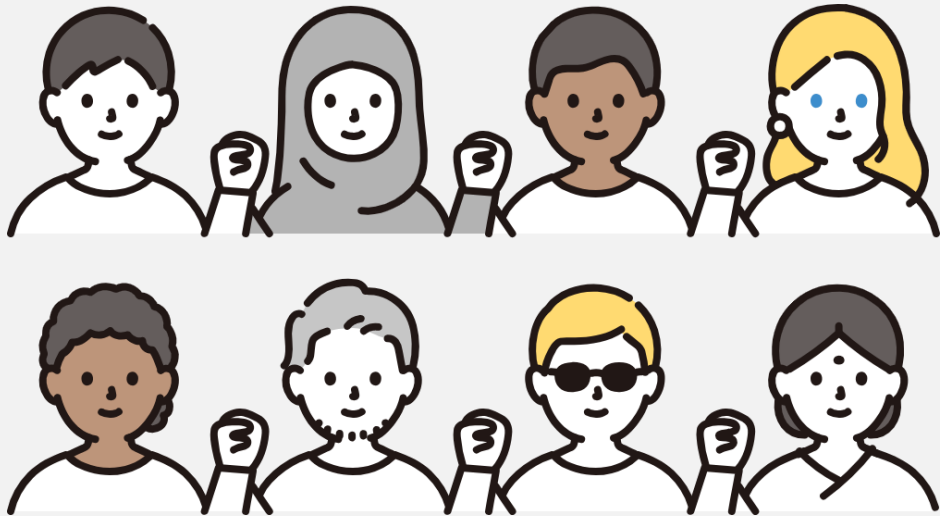


奈良県こども・女性課 係長の上田です。

昨年度は、男女共同参画計画の策定、審議会への
若者委員の登用、市町村長対象のセミナーなどに取り
組んできました。

現在は、就業希望の潜在層の掘り起こしに向けて
取組検討中です。

性別に関する 生きづらさをゼロに！



性別の固定観念は、様々な場面に根強く存在。プレッシャーや干渉となって若者に生きづらさや制限を感じさせています。

性別に関する生きづらさを「モヤモヤ」ですら感じさせない世の中にしたい！

性別の固定観念が、
若者が地元を離れて東京圏に出て行き、
更には戻ってこない要因の一つと言われているなか、

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に賛成

全国 1 位

性別に関する固定観念で生きづらさを感じる

奈良県の若者 40%

課題の背景



アンケート結果

生きづらさを感じる言動、雰囲気
女性「家事、育児、介護は女性がするもの」
「女性は男性に従うのが良い」
「お茶出しや掃除は女性がするもの」
男性「力仕事や危険な仕事は男の仕事」
「男は育児休業を取得しにくい」



講義を行った際の大学生の声

- ・ 祖母が何かにつけ「あんたは女の子やねんから」と言ってくる（ジェンダーギャップはジェネレーションギャップ）
- ・ 役職やリーダーは男性に任せがち
- ・ 男性になら何を言ってもいい、みたいな風潮がある
- ・ 進路相談で親に「女の子には無理」と言われた

取り組み共創プロジェクトテーマ

若者のジェンダーモヤモヤを可視化し、

行動を促す仕掛けづくり

現状の取り組みと課題感

- ◆ 若者の感じている性別モヤモヤはアンケートの項目以外にも多種多様。声も上げにくい。なのにアプローチできていない。
- しかし、分母が多く、個々人への働きかけにキリがない
- 特に、県外転出傾向の強い高校・大学生への確実なつながり方とは？学生コミュニティってないの？
- 「ジェンダー」がテーマでは弱い



現状の取り組み

- 企業トップや市町村長を対象とした変革のワークショップ（泥臭く企業と交渉中）
- 要望のある大学には講義（たった年1～2回）
- 審議会に若者委員の登用（たった2人）



取り組みたい共創テーマ

高校・大学生のジェンダーモヤモヤを可視化し、行動へ繋ぐコミュニティ形成
共創プロジェクトに向けたパートナーを募集します

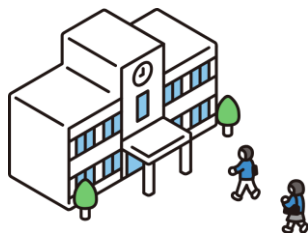
共創アイデア例 01



“ジェンダーモヤモヤ”ポッド
キャスト／ショート動画

- #学生の匿名エピソードの気軽投稿・音声化・分析
- #コメント欄や投票で共感
- #SNS拡散
- #リアル集会

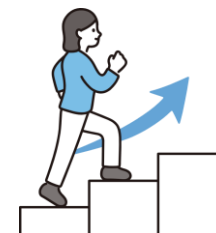
共創アイデア例 02



学生アンバサダーとの共創

- #県内高校・大学ごとに学生アンバサダー募集
- #少人数の対話会
- #アンバサダーの学内活動を伴走
- #アンバサダー育成プログラム設計

共創アイデア例 03



ジェンダー×キャリアデザイン

- #ロールモデルとの交流
- #県内企業との接点創出
- #女性活躍
- #自己理解・キャリア形成

提供可能なリソース

本県のこれまでの取り組みや保有の実証フィールドを提供いたします

01 リアルな集会の場

- 奈良県県民くらし相談センター（男女共同参画センター）の交流スペース

02 県内高校、大学、市町村との接点

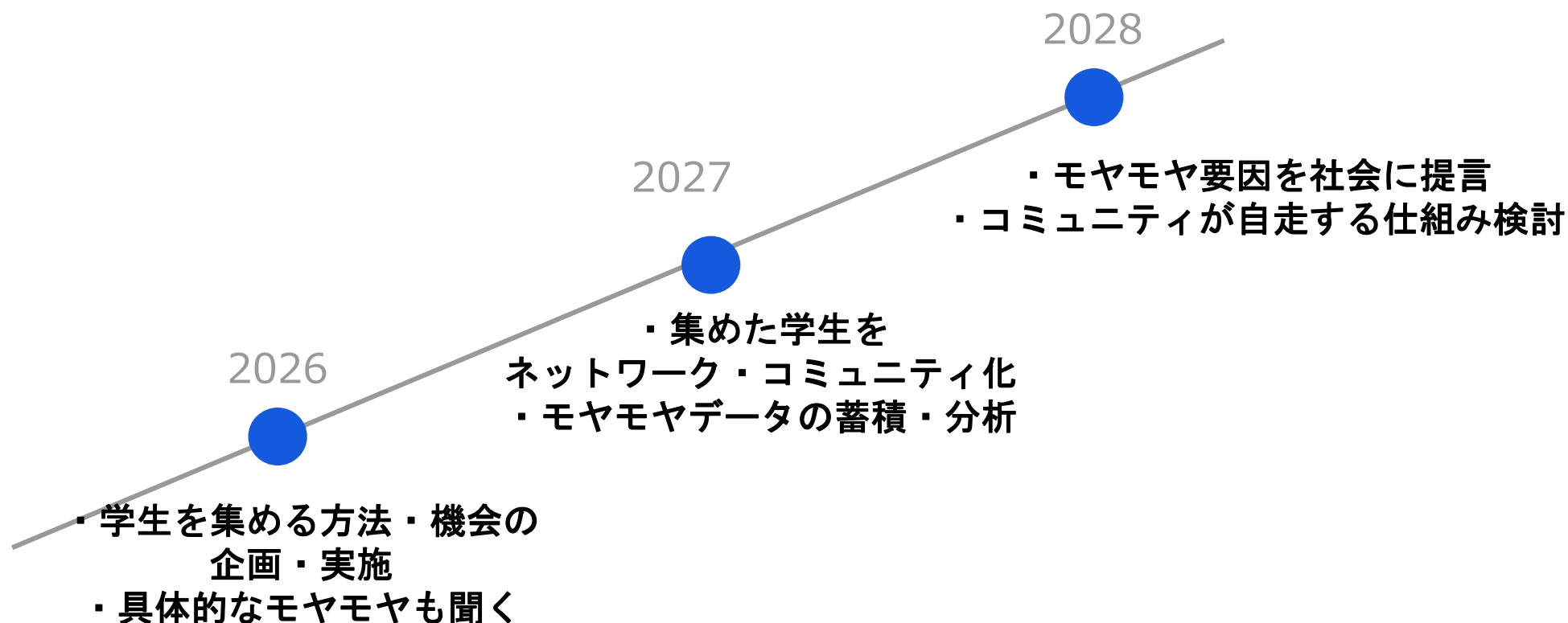
- 教育委員会、大学教授との繋がり、市町村ネットワーク、

03 性別を起因とした生きづらさの調査データ、ジェンダーに関する知識

- 関連データやジェンダーの知識については専門家や職員が補います

中長期で目指す姿

本年度の実証では、高校・大学生が集まる入り口をつくり、
小規模からモヤモヤを集めることを目指します



変える勇気が奈良を切りひらく。

学生の力を借りて、
保守的な奈良の変革を共に担いませんか？

どこの県も若者に情報を届けられないと嘆いています。
この共創が今後の足がかりになるはずです。